

# 海夫通信 第50号

【海夫】潮の香りをほのかに残すここ霞ヶ浦にもかつては多くの海の民がいた。海に寄り添い、潮の流れとともに暮らしていた人たちに思いを寄せて、今生きる霞ヶ浦の海夫たらんとす。

NPO法人霞ヶ浦アカデミー会報



## CONTENTS

- 【連載】 霞ヶ浦北浦 歴史的な不漁の謎を解く
- 【連載】 野草キッチン～冬から美味しくなる野草～
- 【寄稿】 いきものに興味を持つきっかけを提供したい他

# を解く



浜田篤信。東北大学農学部修士課程修了(海洋学専攻)。農学博士。東北大学助手を経て、茨城県水産試験場内水面試験場に勤務。茨城県内水面水産試験場長として活躍後、(有)霞ヶ浦生態系研究所を設立。霞ヶ浦アカデミー監事。

ワカサギは、日本全国で賞味される霞ヶ浦北浦の特産品ですが、最近「ワカサギ不漁」が新聞紙上でとりあげられていきます。不漁はワカサギに限られたわけではなく、佃煮の原料であるハゼ類やテナガエビでも同様でイカダヤキに加工されていたタナゴ類や小鮒は「不漁」を超え絶滅に瀕し話題にさえならない状態です。

## (1) 内湾から湖沼へ 江戸時代

前回は、1960年以後の漁獲量変動の原因を解析しましたが、今回はそれ以前に遡ってみます。霞ヶ浦北浦の漁獲量変動の主たる原因が河川事業に関連していたことは、これまでも繰り返し述べてきました。1960年以前は、どうだったのでしょうか。

内湾であった霞ヶ浦北浦が汽湖水湖への道をたどり始めるのは1594年頃とさ14kmれています。栗橋〜関宿間の間の台地を開削して造成された「江戸川」利根川」航路の開発です。実際に上流の河川水が現利根川の流路に流下するようになるのは1654年以降で当時の川幅は18m(十間)程度とされています。その後、1809年、1871年および1915年の3回にわたって拡幅が行われています。この河川事業は「利根川東遷」とよばれ、従来江戸幕府による治水対策事業とされていたようですが、1975年以降になると、これを経済基盤の一環、舟運のための交通網の整備とする説が定着してきます(小出博、日本の河川研究1972、利根川と淀川1975)。

近世における大量の物資輸送は江戸幕府の幕藩体制整備に合わせて本格化しますが、太平洋側の東周り航路は日本海側の西回り航路に遅れて1740年頃からとされています。米にして3600トを積載する大型の高瀬船の就航を可能にする航路の出現です。航路の開発から終焉までの過程は、文献調査だけではなく、高瀬舟の運航を生業とした船頭さんたちからの聞き取り調査を行った秀作があり、一読をお勧めします(渡邊貢二著「高瀬船、菴書房、ふるさと文庫1978」)。洪水と河川事業については、近世初頭から現在に至るまでの歴史的過程が解明されています。利根川の治水と水害については、利根川治水考(根岸1907)、利根川治水論考(吉田1910)、利根川治水史(1943)が利根川治水の変遷と水害(大熊孝、東京大学出版会1981)で総括され、詳細には学術誌等で報告されています。それらを詳細に検討し独自の調査研究で利根川の治水、洪水および水資源開発の歴史

を解明し集大成した名著が、上記の「利根川治水の変遷と水害」です。以下に本著にしたがって利根川下流の河川事業の概略を紹介いたします。江戸時代以降、流域の諸藩による河川事業で下流域への堆積が進み、河口付近では新田開発も行われるようになります。一七〇〇年以降には浅間山の2回の噴火で河床や河口部への堆積が進みました。舟運の障害、水田の冠水や洪水を引き起こすようになります。1830年に幕府は、舟運障害を解消するために掘削、水草の刈り取り、定置網等の漁具使用の禁止等の「天保の水行直」と呼ばれる対策を霞ヶ浦四十八津等に命じ実施します(今泉元成ふるさと牛堀第5章2節、2001)。

確保を目的とするものでこの時期にも、なお、舟運に重点がおかれていたものと考えられます。

## (3) 舟運から治水へ

明治29年(1896)の河川法制定にともない地方負担であった高水工事負担に国庫負担の道が開かれ国家の関与が大きくなります。また、鉄道運輸整備の進歩もあって、利根川水系でも低水工事から高水工事へと河川事業の内容が変化していきます。

こうした背景から、明治33年(1900)、利根川改修工事が始められます。この事業は、大工事であるため以下の3期に分けて実施されています。

## (2) 近代国家成立以降 利根川低水工事

利根川河口域の閉塞状態は近代国家成立後にも持続されており、明治政府は1869年には北浦下流部から鹿島灘への放水路(掘割川)建設に着工、1872年には完成をみる。直後の台風で河口は閉塞します。また1871年には赤堀川の拡幅や江戸川流頭部の棒だしにも着手しています。近代工法による本格的な河川事業が開始されるようになるのは、オランダの専門家を招聘し開始される利根川低水工事中着工(1875)以後のことです。利根川低水工事は、航路

第一期(1900〜1909) 千葉県佐原以下太平洋に至る4.2kmの区間  
第二期(1907〜1930) 茨城県佐原から取手に至る5.2kmの区間で  
第三期(1910〜1930) 茨城県取手から上流の区間  
本工事では、利根川と霞ヶ浦北浦を分離する方針で霞ヶ浦北浦の流出口を浪逆浦から現在の宝山地点まで引き下げ、1918年には横利根川閘門を設けています。

# 霞ヶ浦北浦

# 歴史的な漁の不漁の謎

1910年には、未曾有の大洪水が発生し、改修計画の改定をせまられ江戸川への分水のため江戸川改修事業等が追加されています。

さらに1935、1937、1941年の大洪水によって改修計画を見直し、利根川増補計画、つづいて増補計画改定を行っています。この計画の主な事業は次の6点とされていました。

- ① 渡良瀬川遊水池整備
- ② 利根運河の放水路化
- ③ 利根放水路の開削
- ④ 小貝川河口の引下げ
- ⑤ 鬼怒川上流域のダム整備
- ⑥ 霞ヶ浦放水路の開削

増補計画は、第二次世界大戦の影響で一部分しか実施されませんでした。

当初計画では霞ヶ浦の本新島付近から与田浦、浪逆浦を経て北浦下流の掘割川河口に至る「霞ヶ浦放水路」を開削し霞ヶ浦北浦を利根川から分離す計画となっていました。実現することはありませんでした。

利根川増補計画のもう一つの特徴は、治水施設の多目的利用です。昭和初期には東京市は多目的ダムを検討しはじめています。

## (4) 第二次大戦後 霞ヶ浦放水路から水ガメへ

第二次世界大戦で中断していた前述の増補計画は昭和22年(1947)の大洪水の流量が従来の計画水量を大幅に上回っ

たこともあって再検討され利根川改修改定計画が策定されました。最大洪水流量の毎秒1万5千を1万7千立方メートルに引き上げ、利根川上流の最大洪水流量を、1万立方メートルから1万4千立方メートルに増やしています。

この1万4千立方メートルの内5千立方メートルを江戸川に分流し、残りの9千立方メートルを利根川下流へ流下させ最終的に5千立方メートルが河口から鹿島灘に放流されるという内容です。この流量を確保するために多目的ダムや洪水調整池(渡良瀬、稲戸井、菅生、田中)造成、さらに利根川放水路と利根運河からの分流も計画されています。

増補計画中の霞ヶ浦放水路は姿を消し、常陸川・北利根川(現常陸利根川)放水路の改修と常陸川水門が計画実行されています。

本改修改訂計画の特徴の一つは、治水から利水に重点が移行している点で、霞ヶ浦総合開発事業へと誘導されていきます。本書(大熊孝著・利根川治水の変遷と水害)では、この治水から利水への過程を以下のように紹介しています。

霞ヶ浦開発事業単独の開発水量は毎秒40立方メートルですが、さらなる開発を視野に利根川、鬼怒川、那珂川、阿賀野川などからの導水が構想され、その場合には、改修改訂計画で採用されなかった霞ヶ浦放水路(北浦鰐川掘割川↓鹿島灘)も必要とされていました。

かつての開発構想の中、那珂川および利根川からの導水については、「霞ヶ浦導水事業」として現在工事が進められていることは周知のとおりです。

## (5) 内湾から 平地ダムへの軌跡

図1に霞ヶ浦の塩素イオン濃度(堆積物間隙水から推定)を示しました。

霞ヶ浦の塩分は当初約2000mg程度ですが、赤堀川開削(1654)で減衰を開始、浅間山噴火(1721、83)で加速され、1800年頃には300mgにまで低下しています。その後、赤堀川拡幅(1809)や天保の「水行直し」の二つの河川事業で一時的に上昇し、閉塞状態が解消されていますが、持続することなく再び淡水化が進みます。この図は江戸時代に、舟運等の障害を取り除くための河川工事が、短期的ではあれ、霞ヶ浦全体の環境にも影響を与えていたことを示唆しています。近代的な機械を用いないこの時代の技術の高さ再評価したところで

近代に入ってから1875、1900年の箇所にも塩分上昇が見られるのは、利根川W低水および高水工事の影響とみられます。

1950年にも比較的大きな上昇が見られますが、1948年から始められた北利根川改修工事の影響と考えられます。

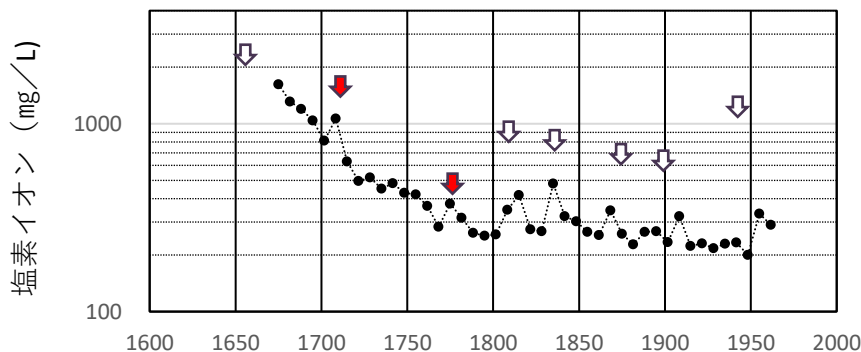


図1 霞ヶ浦の塩素イオン濃度

## 今回のまとめ

江戸時代以降の河川工事の歴史を紹介しましたが、それらは、いずれも霞ヶ浦の淡水化に影響を与えていたことが明らかとなりました。このことは、塩分だけではなく塩分以外の水質や生物にも影響を与えたことを示唆しています。

いきものに興味を持つきっかけを提供したい

夏野かなせみ

この会報の表紙イラストを描かせていただいたいます。幼少期から生き物が好きで、虫捕りや魚釣りをして過ごしてきました。特に魚釣りが大好きで、近所の水路でウグイを釣るのが一番の楽しみでした。しかし中学生になるころからほかの遊びに目が行きがちになり、少しずつ生き物や自然からは遠ざかっていきました。大学でも生物学を学んだのですが、自主的に外に出て生き物に触れることもあまりせず、そして社会人になるころには、大好きだった魚釣りも年に一回行くかどうかくらいに。

そしてイラストを描くことという生き物との接点を持っておかげで、絵を描いて楽しむだけでなく、自分がそれまで興味があった生き物のことにも目が向くようになりました。幼いころはクワガタムシなどの大型で飼育しやすい昆虫しか見えていなかったのが、ハムシやゾウムシといった、より小型の昆虫にも目が留まるようになったり、ふつう釣りの対象にはならない魚についても、もっと知りたいと思ったり。また、環境問題や生物多様性の現状についても関心を持つようになりました。自分がそうであったように、何らかの形で興味を持つきっかけがあれば、生き物に関するいろいろな問題にも関心を持てるのではないかと思うし、関心を持ってくれる人が増えていけば、生き物や自然を守ることももつながらるのではないかと考えています。僕はイラストの仕事を通して、そのきっかけを提供したいです。今はまだイラストレーターとして駆け出しで、その機会をあまりもらえていません。生き物や自然の風景のイラストが描ける人を探している方、ぜひ僕にお仕事をください!

〈自己紹介〉

夏野かなせみ

風景と生き物を描くイラストレーター。なんでもないので、でもどこか懐かしい風景と、そこに生きている生き物と人間のかかわりを描くのが好きです。

Twitter @kanasemi\_nnnnn

▼これまで夏野かなせみさんが手掛けてくれたイラストが目を惹く海夫通信の表紙



会 員 募 集

NPO法人霞ヶ浦アカデミーは、みなさまのご支援により活動を継続できています。活動を共にしてくれる、また応援してくれる会員を募集しています。ご協力よろしくお願いいたします。

普通会員 入会金 1,000円 / 年会費 3,000円

賛助会員 1口 10,000円

〔入会の方法〕

氏名、住所、連絡先、会員の種類をご記載の上、お気軽にメールください

メールアドレス kasumigaura.academy@gmail.com

Advertisement for 'Kasumi Lake World Kayaking Festival' (葦舟世界大会) with dates 2/28 and 3/1, and location Kasumigaura.

# 連載第3回 野草キッチン ～冬から美味しくなる野草～

日本全国の野草を食べながら旅をする、山菜ソムリエの山田証です。霞ヶ浦アカデミーの皆さんも、野草やドングリと言った、自然の食べ物に触れ合うイベントをさせていたでいています。ほとんどの食べ物、流通経路でやってくる現代。食料難、防災意識が高まっているこの時代では特に、身の回りの自然ものの活用が大切だと感じています。野草は冬がもっとも美味しいのです。秋くらいから、野草はすでに次の春に向けて、冬越しの形（ロゼット）になっています。葉を地面に広げたその形が、バラの花に似ているので、ロゼッタ、もしくはロゼットと言われています。この時期の野草は、春の七草

を代表されるように、アクが少なく、お浸しやお粥にしても美味しいものも多く、いろんな料理に使えます。実は山菜全盛期の春よりも、冬の野草の方が食べやすく美味しいのです。もちろん、僕たちの体を冬に変化させる、大切な栄養源でもあります。今一番お勧めで食べやすいのが、ハルジオン、ヒメジオンのロゼットです。その白い花は誰でも見たことがあると思いますが、ロゼットの時の姿を知っている人は少ないのではないのでしょうか。ロゼットは株ごと収穫してよく洗います。根っこは切り落として、葉の部分だけを使います。そのまま鍋物、煮物に入れてほろ苦

さを味わうのもお勧めですが、実は生でも食べやすいので、僕はオリーブオイルと塩だけでサラダにしていたたくともあります。ついついたくさん食べてしまいそうなくらい美味しいので、食べ過ぎは要注意です。野草を食べ慣れると、だんだん体の内側の感覚が敏感になってきます。体に入れた時、体が欲しているものなのか、いらぬものなのか、はっきり分かるようになってきます。それまでは、野草はどんなに食べやすくても、たくさん食べることは控えて、ほんの少しずつ、体と相談しながら試すようにして下さい。



森林インストラクター  
山菜ソムリエ  
山田 証

ヒメジオン(右)、ハルジオン(左)



## カヌークラブから

2025.10.05那珂川県境～桂

今回も那珂川です。

午前中は、基礎練習をみっちり。

いかにまっすぐ進むか、とかドローストロークやスカーリングとかリバース(バック)ロールまでやる人も。

そして午後は川下り。  
クラブらしい、いい一日でした。



行方カヌークラブHP





Writer 西谷篤彦  
元大学病院薬剤部・(独)医薬品医療機器総合機構勤務薬剤師。霞ヶ浦アカデミーの会員で、故郷の環境保全、地方活性化を願いつつ横浜と霞ヶ浦の家との二地域居住生活を続けている。



奥井登美子  
薬剤師。1895年創業の奥井薬局を経営する傍ら、霞ヶ浦の自然を守る活動などに参加。1933年生まれ、土浦市在住。

2025年も残り少なくなってきました。今回は今年の干支である蛇(巳)がさまざまな文化で多様な象徴になっているので、いくつかあげてみよう。

医療のシンボルにはよく「蛇」が使われることがあります。

「蛇」は表面が傷ついても、脱皮をすることで傷のない姿に戻るといった性質から再生と治癒のシンボルとされました。

日本では馴染みが薄いですが、世界では救急医療のシンボルマークとして知られ救急車には、青い星型の中央に杖に巻きつく蛇が描かれたマーク(スター・オブ・ライフ)が大きくデザインされています。そのルーツは古代ギリシャにまでさかのぼります。ギリシャ神話にヒュギエイアの杯とアスクレピオスの杖というものがあるそうです。

ギリシャ神話の神々が持っていた「杯・さかずき」と「杖・つえ」のことなのですが、その「杯・さかずき」と「杖・つえ」は「蛇」が巻きついた状態で表現されています。ヒュギエイアの杯は薬学のシンボルとして用いられる場合が多く、医療・医学の象徴として世界的に広く用いられているシンボルマークです。アスクレピオスの杖は欧米では医の象徴として世界保健機関、米国医師会等のマークにも使われています。アスクレピオスの杖が医学のシンボルとされるのに対し、ヒュギエイアの杯は薬学のシンボルとして用いられています。今回は土浦の奥井薬局の奥井登美子さんの「蛇と仲良く」の記事を取り上げます。

### 「蛇と仲良く」

今年には蛇の年。蛇さんと仲良くしよう。

私達の水道水の源地。霞ヶ浦の通りには森林が少ない。浄水器の森を造ろうではないかと2000年、岡野静江さんたちと、加茂の農地にみんなどんぐりを持ち寄りて蒔いて造ったのが「どんぐり山」だ。どんぐりの苗木を植えたが、雑草の草刈が大変だった。現地の人達は除草剤を蒔けばいいのというが、昆虫のいる自然に近い森林を目指していた私たちは絶対、農薬を使いたくなかった。みんなどんぐり山と協議した結果、ペーパーマルチ段ボールの箱を森全体に敷き詰めてみた。おかげさまで3〜4年間、草刈しなくてもどんぐりの木は、元気に大きく、育ってくれた。

2003年「茨城県自然保護大会」の実習の森にどんぐり山が選ばれた。子供たちがたくさん来てくれるのはうれしいが、安全も大事だ。

点検に行ってみたら、蛇のママシ君と、ヤマカガシ君がたくさん生息している。

加茂の石川さんが、「蛇をつかむときは、手袋は駄目なんだ。素手でつかむと、蛇が何を考えているのかがよく解るよ」と、いながらもママシを素手で8匹も掴まえてくれた。そのママシは展示用のガラスケースに入れて、山の実習の時、子供たちに見てもらった。ママシにかまれた時は、ママシ血清があるが、厄介なのはヤマカガシで、噛まれても、血清が存在しない。この蛇は性格がこざかしい。複雑怪奇。人間に友好ムード、可愛らしい所もあるが可愛がると付け上がってくる。私が下見に行った時、どんぐりの木の上の方の枝にこの蛇が絡まっていた。

「いったい、何をしているのだろう?」私が7〜80センチ離れた所で、じっと観察してい

たら、まったく、急に、頭の向きを変えて、私のおでこに飛びついてきた。噛まれないように振り払ったので無事だったが、チトびっくりした。2005年、とうとう、夢にまで見た国蝶のオオムラサキがどんぐり山に出現。以来、年一回「オオムラサキ観察会」を続けている。観察会の時の私は救急係。蛇と蜂。2〜3日前に点検に行き、当日は救急箱に薬を詰め込んで参加する。小学生の時、蛇がこわいといって泣いたおかげで、男の子にいじめられ、怖くないフリをしているうちに、いつの間にか蛇と仲良しになってしまった。私にとって、蛇は、自然の豊かさを象徴する動物で、魅力的な存在になってしまっている。5〜6年前から「どんぐり山」の観察会の前に、点検のために探しに行っても、蛇はいなくなってしまう。なぜかとても淋しい。



# エビ捕り 9/21

今年生まれたばかりのエビをたくさん獲って楽しみました。エビ獲りには最高の時期でした！



# 7/24 カヌー初級



# 7/27&/8/17 カヌー体験

ちよっと

## 気ににやるニュース



### 「コウライオヤニラミ」 「特定外来種」追加

環境省は10月28日、生態系に大きな被害を及ぼす恐れがあるとして、魚類の「コウライオヤニラミ」などを「特定外来生物」に追加指定する方針を専門家会合で示し、了承された。指定後は外来生物法に基づき飼育や輸入が原則禁止される。

宮崎県大淀川に定着しており、利根川水系（群馬県鮎川）でも確認されていた。

### オオウナギ陸で「餌」捕食

奄美大島に生息するウナギの一種「オオウナギ」が陸に上がって狩りをすることを発見したと、東京大などの研究チームが発表した。飼育下で頻繁に陸で虫を食べているのを観察したほか、島内の河川上流の多くの野生個体の胃に虫やトカゲを確認。水陸両方で狩りをするので、さまざまな環境で生き残ることが可能になったとみられている。

### 霞ヶ浦でウナギ放流 補正予算案に

茨城県は、天然ウナギの資源回復のため、霞ヶ浦と北浦にシラスウナギを放流する。ワカサギなどが激減する中、ウナギが新たな漁業資源となることを実証する。漁業者による放流はこれまでもあったが、県による本格的な放流は初めてとのこと。関連経費3千8百万円を本年度一般会計補正予算案に盛り込み、開会中の県議会に提出した。

併せて県水産試験場内水面支場で稚魚から育てて放流し、追跡調査で効果を明らかにする。

# かすみがうら れきしさんぽ 霞ヶ浦 歴史散歩

3

古墳。それは、その土地を支配していた王や豪族が、死後も自分の力を示すために作ったお墓です。古墳時代(3世紀半ばから7世紀)、日本各地で盛んに建造され、霞ヶ浦周辺にも数多くあります。そのうちの一つ、沖洲にある三味塚古墳や、そこから出土した副葬品(注1)から、古代の霞ヶ浦を垣間見てみましょう。

行方市と小美玉市の境、沖洲にある三味塚古墳は、全長85mの前方後円墳(注2)で、5世紀半ばから後半のものともなっています。

三味塚古墳がつくられた古墳時代は、大和政権が国の統一を進めていく時代であり、日本各地で古墳が盛んに作られた時代でもありました。霞ヶ浦をとりまく地域でも、三味塚古墳はじめ、石岡市の舟塚山古墳(5世紀後半)、かすみ市がうら市柏崎の富士見塚古墳(6世紀初め)など、大小あわせて1000以上の古墳があるといえます。

三味塚古墳は、1955(昭和30)年、霞ヶ浦築堤のための土砂採集工事の折に、一部が破壊されてしまい、緊急発掘調査が行われました。その際、馬の精巧な透かし彫りが施された金銅(こんどう注3)の冠(金銅馬型飾透彫冠)や耳飾り、鉄製の太刀や剣、甲冑などといった武器、石やガラスで作られた玉類など多くの副葬品が出土しました。これらは国の重要文化財の指定を受けています。

三味塚古墳で副葬品が多く残ったのは、これらを収めた石棺が地中2.7m以上の深いところにあり、盗掘にあわなかったためと考えられています。

これまでの調査によると、埋葬されていたのは身長162cmの青年豪族ではないかとのこと。副葬品の豪華さなどからも、かなりの財力、中央政権ともつながりをもつ権威・権力を持った人物ではないでしょう。

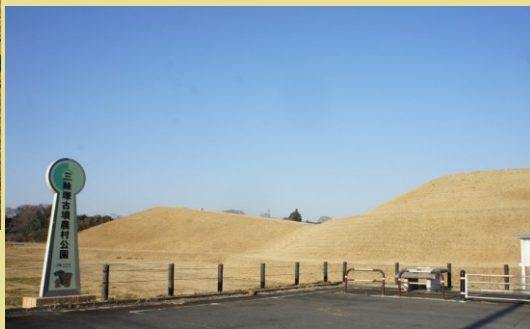
現在の三味塚古墳は、2004～5(平成16～17)年の工事により復元された姿で、前方後円墳の形がよくわかりました。古墳に登ってみると、目の前には筑波山や霞ヶ浦。古代の人達は、このこれらの景色をどういった思いで眺めていたのでしょうか。想像が膨らみます。

(注1) 死者とともに埋葬されるもの  
(注2) 円形と四角形の丘がつながった鍵穴のような形をしている古墳。大仙陵古墳(大阪府堺市)が有名  
(注3) 銅または青銅に金や金箔のメッキを施したものの

## ▼三味塚古墳農村公園 古墳には階段があり登れる



▲後円頂部 埋葬の様子などを記した説明板



Writer S・H

プロフィール: 鹿行地区在住。地域のイベントなどを取材し、紹介しています。

## 編集後記

執筆していただいたいるみなさんから原稿がメールで届くと、ありがたい気持ちと、重い腰を上げてパワーポイントを開かないといけないという責任感がやってきました。今号もこうやって編集を終えられてほっとしています。今号は表紙のイラストを描いて頂いている夏野かなせみさんにお願ひして寄稿してもらいました。私は、SNSで生き物のイラストを見るの

が好きなのですが、夏野さんの絵には一目ぼれして、数年前に表紙をお願ひしました。イラストをきっかけに「それまで興味が薄かった生き物のことにも目が向くようになった」という夏野さんの視点も共感しました。霞ヶ浦アカデミーにこれまで参加してくれた子どもたちがどこかで霞ヶ浦のことを思い出してくれると嬉しいです。(菊地章雄)



いいね！お願いします

facebookで  
日々の活動を更新中！



海夫通信では、みなさまからの掲載する原稿・写真を募集しています。昔の霞ヶ浦の様子や、庭にいた珍しい生き物、お気に入りの自然スポット、本の感想などテーマ問わず原稿をお寄せください。

発行 NPO法人霞ヶ浦アカデミー

発行日 2025年11月31日

事務所 茨城県行方市浜370番地1

ホームページ <https://k-acad.com/>

Facebook <http://www.facebook.com/kasumigauraAC/>

メールアドレス [kasumigaura.academy@gmail.com](mailto:kasumigaura.academy@gmail.com)